校長室からこんにちは！

Ｎｏ．７
令和３年８月２５日
発 行：貝塚 敦

や	やるぞ～	ま	まけないぞ～	が	がんばろうぜ～	た	楽しい学校になるように

生まれてきたのはなぜさ？

我が少年時代の青春ドラマ「われら青春」（中村雅俊主演）のテーマ曲「帰らざる日々のために」の歌い出しはこんなのでした。

♪♪「生まれて来たのは、なぜさ。教えてぼくらは、誰さ。遠い雲に聞いてみても何も言わない。・・」♪♪

当たり前だ、遠い雲に聞いてみたところで答えてくれるはずはない。まさにコテコテの昭和青春歌謡曲。

★　★　★　★　★　★　★　★　★　★　★　★　★　★　★　★

それはさておき、生まれてきたからには充実した人生を誰しもが望むはずで、子どもたちに豊かな人生を歩んで欲しいが故に我々はいろいろな教育的目標を掲げます。そこで、先日の三校連携会で触れた続きで、**「自己肯定感」**と**「自己有用感」**について考えたいと思います。

新潟市教育ビジョン**「これからの社会をたくましく生き抜く力の育成」**の重要な視点として、**『子どもの自己肯定感を高めましょう』**が掲げられています。また、山潟中学校区の目指す児童生徒像は**「自分に自信をもつ心豊かな子ども」**であり、そのテーマとして**「児童生徒の自己有用感を育む」**と謳われています。

近年では、**「自己肯定感」**の重要性を謳っている学校が目立ちます。さらに「自己有用感」が「自己肯定感」と同一のものとして扱われている傾向も見受けられますが、読んで字の如く、似て非なるものとだと思います。

「自己肯定感」：いろいろな自分を認め、何事もポジティブに捉え、自分をリスペクトできる感情
「自己有用感」：自分の存在が周囲の人に役立っている、周囲に貢献していると認識できる感情

具体的に、あるラグビー部に所属している高校生をモデルに、次の４パターンで考えてみましょう。

	自己肯定感	自己有用感	自分自身の感情
1	×	×	自分は体力も運動能力も低くてセンスもない。先生やチームのみんなからは、きっと役立たずだと思われているのに違いない。このチームに居続けることは周囲に迷惑をかけるだけだ。
2	×	○	自分は体力も運動能力も低くてセンスもない。でも、自分なりに目標を立てて成長していると実感している。それは先生やチームに恵まれ、こんな自分でも必要されているからだ。本当に感謝している。
3	○	×	自分は体力や運動能力も高くセンスもある。努力もしている。でも、自分なりの目標がなかなか達成できない。そもそも練習環境が悪いし、指導者やチームにも恵まれていない。
4	○	○	先生やチームのみんなのおかげで自分は結果を出せたし、自分の能力を高めることもできた。だから、これからもチームメートの力になれると思う。もっとチームのために頑張りたい。

当然のごとく、**「自己肯定感」「自己有用感」の**どちらも低い(パターン１)状態だと、♪♪「生まれてきたのはなぜさ」♪♪と思わず嘆きたくなるかもしれません。どちらも高い(パターン４)に越したことはありません。

では、**「自己肯定感」「自己有用感」**のどちらの優先順位が高いかというと、私は**「自己有用感」**だと思うのです。**「自己有用感」**は『過程・環境・集団・他との関わり』とリンクし、**「自己肯定感」**は『結果・達成感・個・自分を見つめる・自信』とリンクしていると考えられるからです。

結果よりも過程を大切にすることこそが教育の本質だと考えれば、やはり**「自己肯定感」**を高めてから**「自己有用感」**を高めることの方がスムーズだと思います。自分自身を認めてくれる場所、自分を受け入れてくれる環境を手に入れることで、自分の思考パターンを徐々に変化させながら**「自己肯定感」**を得られる方が自然の流れです。また、**「自己肯定感」**が高いのに**「自己有用感」**が低い人間は、謙虚さの欠けた不遜な人間になる危険性もあります。

そして、私はこう思うのです・・・・・・・・・・・・・・・・

Ｑ１．なぜ我々は生まれてきたのか？→Ａ１．自分以外の人間と出会うため。
Ｑ２．教えてぼくらは、誰さ？　　→Ａ２．そのことを悩み苦しみながら追い求めることこそが「生きる」ということでは。
ダサい、クサいと言われようと、生徒に人生を語れる教師でありたいなあ、と思います。